



マスコットキャラクター
「ちゅうおうちゃん」

札幌市立中央幼稚園

令和8年3月発行

研究だより No.3

中央幼稚園研究の重点『地域の中で子どもを育む幼児教育の充実』

研究の視点（1年次）～地域の環境や施設について知り、つながりをもつ中で、幼児が『人とつながる嬉しさや楽しさ』を感じられるような教師の援助や環境の構成を探る。

～今年度の研究(事例研究)で分かったことをまとめました。紹介します～



1 地域の環境や施設について知るためには・・・

POINT

情報の収集と共有

- 日常的にアンテナをはり、楽しみながら探す！調べる！話題にする！
- 地域マップを作成し、園内に掲示、教師間や幼児、保護者と共有。



地域マップを
玄関に掲示



POINT

機会の創出と活用

- 機会を逃さない！
- 幼児の興味や憧れを捉えてつながる場所を探る。
- 同じ場所でも活用の仕方でも新たな関わりが生まれることを意識する。（大通高校など）
- 学級を超えた関わり方の工夫（年少組だけでは行けない場も、年中児と一緒にであれば可能など）

隣接する大通高校グラウンド。高校生が走る姿にくぎ付け！憧れが蓄積。



大通高校での亀の散歩に出会い、興味津々！



2 人とつながる嬉しさや楽しさを感じるためには・・・

POINT

逃さず関わる『本物』のもつ力を生かす

- いろいろな仕事や外の世界に興味、関心をもつようになった。（交番訪問・札幌祭りを再現など）
- 憧れの人や本物に触れる経験が幼児の知的好奇心・探求心をくすぐり、主体的な経験を重ねる力になることが分かった。体験を遊びに変換するプロセスが学びにつながる。



カメのトヨを作ってお散歩！

交番訪問。敬礼を教えてください！



POINT

主体的に関わることができるように

- 関わるためのツールが有効！（手作りカメ・警察手帳作り お祭りごっこでおみくじを高校生にひいてもらう など）
- どんな経験ができるか、幼児は何を知りたいかなど、興味や関心と共に、教師は願いやねらいをもって関わる。

POINT

継続した関わり

- 体験が遊びや生活につながることで、「また会いたい・見せたい・もっと知りたい」など、人への親しみや期待感、人と関わろうとする意欲が高まった。
- 思いをもって関わることで、相手に思いが伝わり、相手側も親しみをもって関わってくれる姿につながった。



POINT

共通体験による共有感

- 皆で同じことを知っていることが、教師や友達とイメージを共有する楽しさや遊びにつながった。
- 幼児は心に残ったことを、それぞれのタイミングで表出することが分かった。教師が逃さずキャッチすることが大切である。

3 研究の成果・課題



下記を次年度の研究に生かしていきます！

○成果 ★課題・次年度に向けて

『本物』や 園では経験できないこと との出会いを通して 地域が身近に！経験が豊かに広がる！

○その時限りのイベント的な体験ではなく、幼児の興味や思いを捉えてつながり、園生活や遊びに生かすこと、そこで生まれた思いをまた次の関わりにつなげていくなど、思いを大事にすることで、豊かな体験や人との関わりへとつながることが分かった。

⇒★どのように出会い（出会わせ方）、どのように経験を遊びや生活に生かすかを考えることが重要。幼児の興味や関心と教師の願いやねらいを重ね合わせて考えられるよう、研究方法を工夫していく。

○相手にも思いが伝わり、心を通わすことがお互いにとって豊かな体験となっていることが分かった。

⇒★お互いにとって豊かな経験となっていることを、成果としてより明らかにし、次年度検証していく。

4 今年度の事例から

3歳児年少組

施設を共にする大通高校グラウンドでカメの『トヨ』の散歩に遭遇。親しみをもつ姿をきっかけに芽生えた「トヨにまた会いたい!」「トヨを作る!」「作ったトヨを高校生に見せたい!」などの思いを関わりにつなげていきました。

優しく話を聞いてくれるお兄さん

カメのトヨに出会い
喜ぶ子どもたち



作ったカメを見せたい！
と再度高校へ

「お兄さん私の
トヨを見て!」

「カメの遠足」の歌も聞いてほしい!

4歳児年中組

年少時からずっと警察ごっこを続けている幼児が警察ごっこをもっと楽しめるように、警察ごっこの仲間だけで警察（交番）訪問を計画。はりきって教えてくれる様子に他の子も関心をもち、2度目は全員で訪問。共有体験が遊びへの意欲につながりました。



2度目は学級全員で訪問。
「僕たちにも敬礼を教えてください!」



警察大好きメンバー。自分たちだけで行った警察のことを教えることが誇らしげ。自信満々に敬礼を披露!



皆で経験したことで、いろいろな幼児が警察のイメージで集まり、関わるようになる



5歳児年長組

毎年、札幌祭りのお神輿を見に行く年長組。今年は神輿に参加している方と偶然知り合う機会があり、担任は、「子どもたちが話を聞く機会をつくってあげたい!」と園に来ていただくことに。

お祭り見学後は、神輿を再現する遊びを楽しむと共に、普段から親しみや憧れの気持ちをもっている大通高校の学生とつながるきっかけにしたいと、神輿を高校生に見せに行くことも計画。

「高校生に見せたい!」
大通高校へお神輿パレード



神輿渡御に参加している
Sさんから説明を聞き、由
来などを知る



「Sさんを探そう!」Sさんが
いることでお祭りへの関心が
ぐっと高まる!



「おみくじひいてください!」～おみく
じが、高校生との関わりのきっかけに



★研究アドバイザーから 八戸学院大学短期大学部 教授 差波 直樹 氏

事例研究を通して

- 「人とつながる・関わる嬉しさ」を重点にしていることがとても良い。生活を豊かにし、人間関係を深めることは今の時代に大事にしたいテーマである。出会わせ方として、地域の様々な役割を担っている大人に会いに行くだけでなく、地域の大人を園に呼ぶという方法もある。
- 事例の相手側にとっても、子どもたちが関わってくれる喜びがあった。双方に価値があることで関係は続いていく。お互いの思いのやりとりが続いていくように、互惠性に目を向けていくとよい。
- 年長のお祭りの事例では、地域の人材と保護者が関わる機会をつくるなど、保護者との共通の話題になっていることがとても良い経験となっていた。

保育観察を通して

相互理解、相互交渉などといった、幼児が他者との関係性を構築したり、その関係性を充実させたりしていく、その前段に「知る」という行為があるのだと、今日の子どもたちの姿から強く感じた。

幼児が「知る」対象は、ヒト、モノ、コト、場所、自然など、いわゆる幼児を取り巻く環境である。この環境を幼児が知ろうとするなどといった、環境への能動的な働きかけをこれまでたくさん積み重ねてきたのではないだろうか。この働きかけの原動力は、それらに対する興味だとは思いますが、「知ろうとする」態度も、この時期に育ってほしい姿の一つである。

知りたいと感じ(興味)、知ろうとし(態度)、知り(知識)、知り合い(知識の共有)、知っているから楽しくなる(実感)、また楽しくしたいために知ろうとする(意欲)のような流れである。これらを直接経験していくこと、それが教育活動として取り入れていけるところに、幼児期の教育の強みがある。

また、上記の育ちを可能にするのは、「その子が今、何を知ろうとしているのか」を知ろうとする保育者である。「その子は今、何を実現しようとしているのか、どのような心持ちであるのか」それを能動的に思う、探ろうとする保育者の存在やその姿勢は、子どもたちに大きく影響を与えると考える。